

2018年3月期 (2017年4月～2018年3月)

# 決算説明資料



淡路工場 (兵庫県淡路市)

 **東洋合成工業株式会社**

2018年5月18日 (金)

# 2018年3月期 決算概要

---

## 2018年3月期 業績ハイライト

- 好調な市場を背景に売上が13%増加、売上高は205億となった
- 全事業分野で前期比増収、感光材+16%、化成品+10%、ロジスティック+5%
- 売上高の増加に伴い営業利益は13億円（前期比2.5倍）、経常利益は約11億円（同2.6倍）となった
- 特別利益として、旧工場用地の売却益1.5億円を計上（1Q計上）

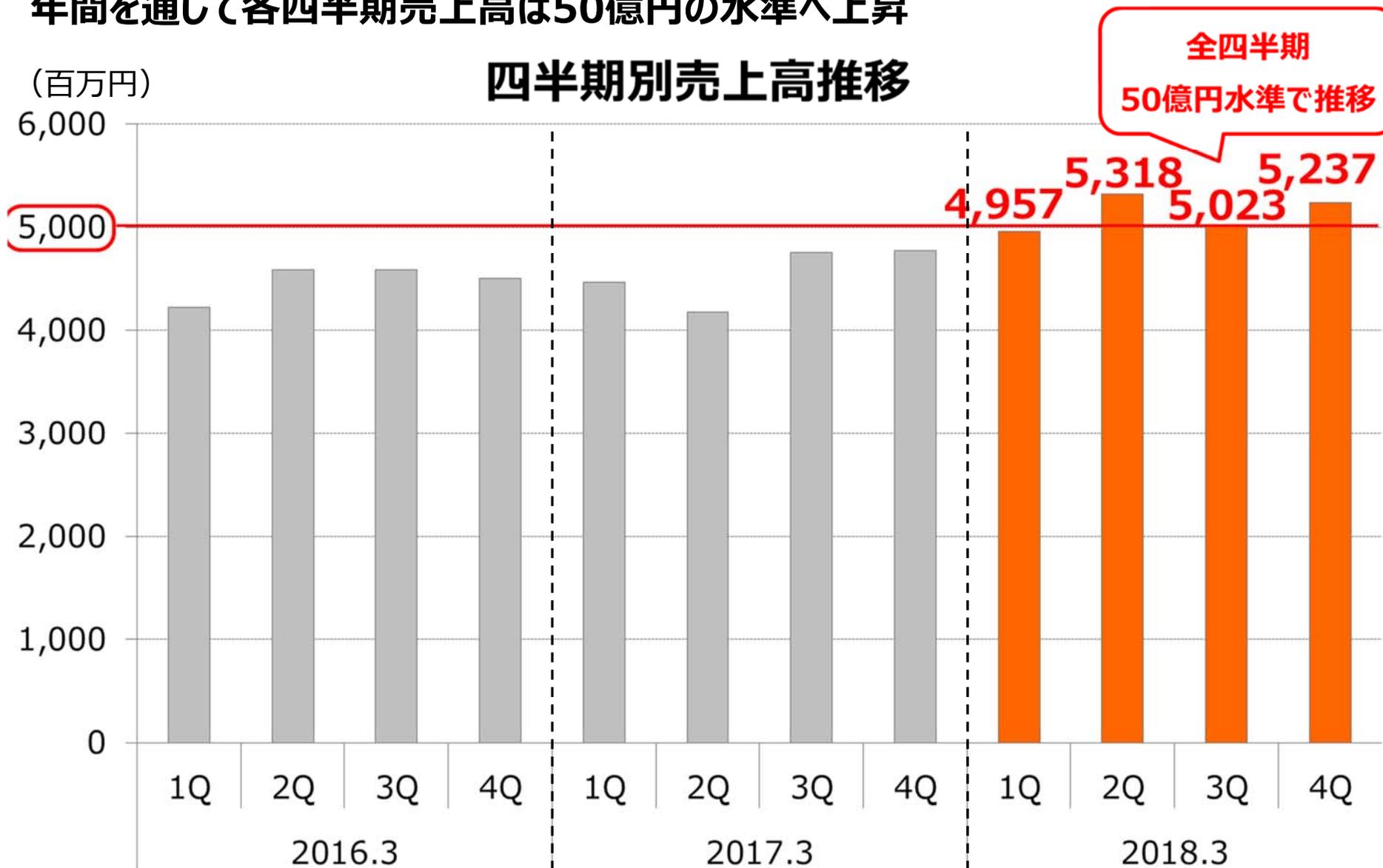
(百万円)	2017.3	2018.3	2018.3	前年同期比		計画比	
	実績	修正計画		実績	増減額	率	増減額
売上高	18,183	20,000	<b>20,536</b>	2,353	+13%	536	+3%
営業利益	527	1,150	<b>1,300</b>	773	2.5倍	150	+13%
経常利益	412	1,000	<b>1,089</b>	676	2.6倍	89	+9%
当期純利益	233	750	<b>863</b>	630	3.7倍	113	+15%

実績レート¥108/\$

実績レート¥111/\$

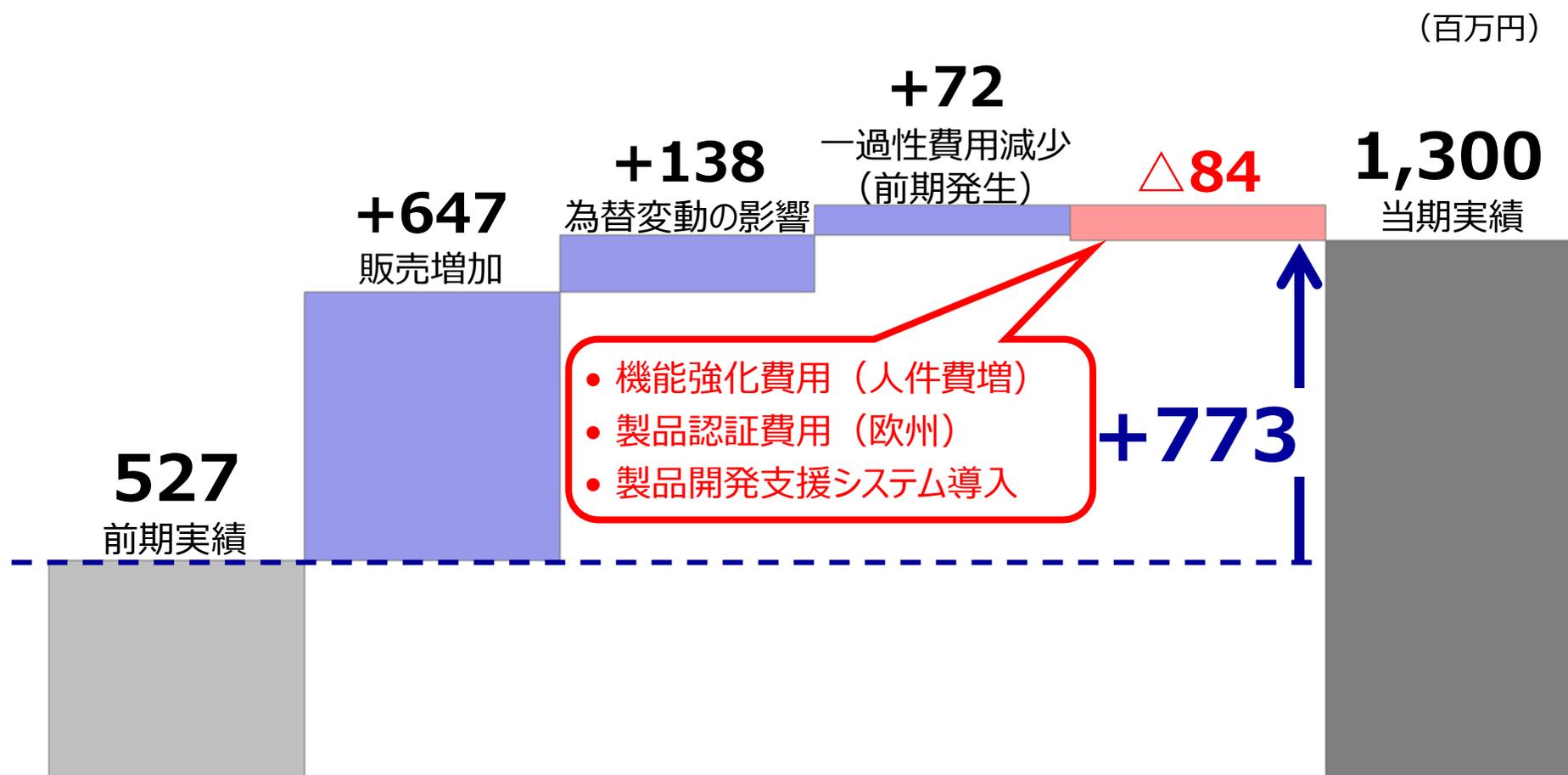
# 四半期別売上高推移

年間を通じて各四半期売上高は50億円の水準へ上昇



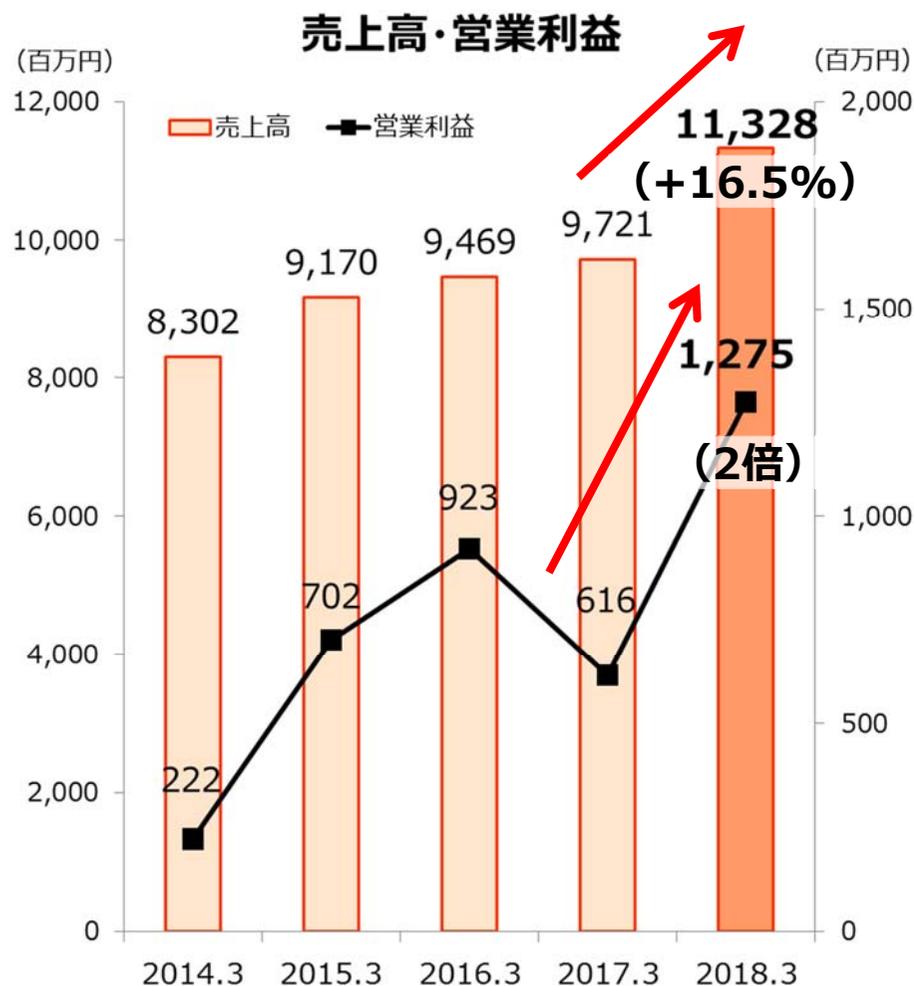
# 営業利益 増減要因

- 当期の販売増、前期比での費用減等により大幅増益となった



# 感光性材料セグメント

## ● 半導体向けの需要増、FPD向けは好調に推移し、売上高・利益共に拡大



### ■ 市場概況

半導体向けは前期後半からの需要急増により拡大、FPD向けは高解像度化の進展により好調に推移。

### ■ 業績概要

売上高：11,328万円（前期比+1,607百万円）  
営業利益：1,275百万円（前期比+659百万円）

### ■ 今後の市場環境

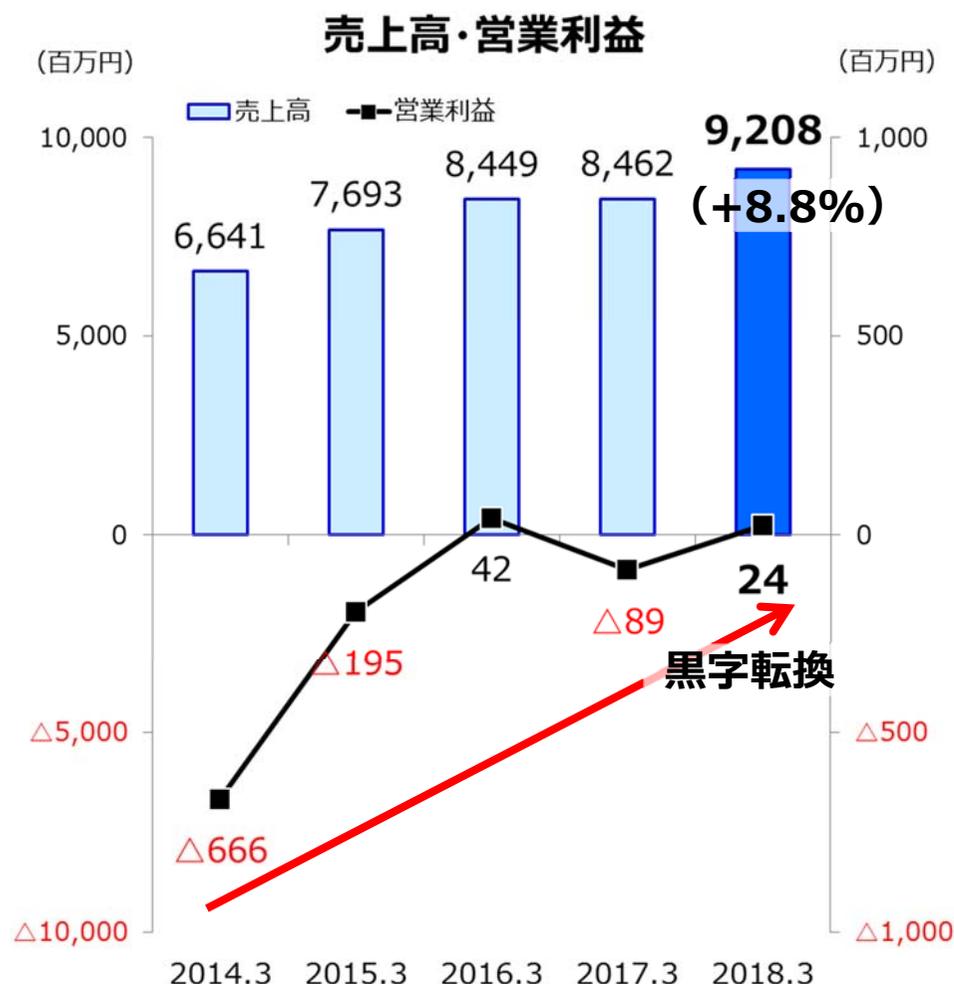
**半導体**：多層構造の半導体（三次元メモリ・DRAM・ロジック）の増加、IoT・記憶媒体・車・AI・クラウド化・5G通信・FA等により、感光材需要は、高成長が持続する見通し。

**ディスプレイ**：FPD関連需要も増加が続く。

スマホ、高解像度TV、タッチパネル、車載FPDなども増加の一途。有機ELパネル関連も堅調。

# 化成品セグメント

- 機能化学品（香料材料）、ファインケミカル（溶剤）、ロジスティックの全てで増収となり、黒字転換



## ■ 業績概要

全分野で売上増加。

売上高 9,208百万円（前期比+746百万円）

営業損益 24百万円（前期比+114百万円）

## ■ 分野別概況

### ● 機能化学品（香料材料）

需要増に伴い、海外主要顧客を中心に増収

### ● ファインケミカル（高純度溶剤）

半導体・FPD等の需要増により、増収

### ● ロジスティック分野

旺盛な需要により高稼働を継続、増収

## ■ 今後の市場環境

香料市場は引き続き成長が続く

半導体・FPD関連も好調続く

化成品市場も市場環境は良好

# 損益計算書

- 売上増収に伴い、営業利益は13億円、経常利益は10億円となった
- 営業外損益は、前期の補助金収入が発生無し
- 特別利益にて、固定資産（旧工場用地）の売却益154百万円を計上

(百万円)	2017.3期	2018.3期	増減額	増減率
売上高	18,183	20,536	2,353	+13%
営業利益	527	1,300	773	2.5倍
営業外収益	224	64	△159	△71%
営業外費用	339	276	△63	△19%
経常利益	412	1,089	676	2.6倍
特別損益	△255	114	370	-
税引前 当期純利益	156	1,203	1,047	7.7倍
法人税等	△76	340	417	-
当期純利益	233	863	629	3.7倍

[補助金収入 △138]  
前期、淡路工場補助金発生、  
当期は発生無し

[為替差損 △66]  
年初以降の円高推移により  
為替差損が発生するも、  
前期比減少

[特別利益 +154]  
固定資産（旧工場用地）  
売却

# 貸借対照表

- 売上増加に伴い売上債権も増加、利益増に伴い自己資本比率が25.7%へ上昇
- 設備増強に伴い有形固定資産は増加しているものの、期末有利子負債は減少

(百万円)	2017.3末	2018.3末	増減額	
<b>流動資産</b>	<b>11,465</b>	<b>12,841</b>	<b>+1,376</b>	
現金預金	1,865	2,525	+659	
売上債権	3,183	3,695	+512	[売上債権 +512] 販売増により増加
棚卸資産	5,889	6,108	+219	
その他	527	511	△15	
<b>固定資産</b>	<b>16,959</b>	<b>17,456</b>	<b>+496</b>	
有形固定資産	16,059	16,585	+526	[有形固定資産 +526] 設備増強工事に伴い増加
無形固定資産	366	331	△35	
投資・その他	533	540	+6	
<b>資産合計</b>	<b>28,425</b>	<b>30,298</b>	<b>+1,872</b>	
<b>負債</b>	<b>21,424</b>	<b>22,514</b>	<b>+1,090</b>	
仕入債務	2,184	2,872	+687	
有利子負債	15,008	14,460	△547	[有利子負債 △547] 有利子負債は減少
その他	4,232	5,182	+950	
<b>純資産</b>	<b>7,000</b>	<b>7,783</b>	<b>+782</b>	
株主資本	6,955	7,738	+783	
<b>負債・純資産合計</b>	<b>28,425</b>	<b>30,298</b>	<b>+1,872</b>	[自己資本比率] 25.7% (前期末比+1.1pt)

# キャッシュフロー計算書

- 売上が13%上昇したが、営業CFは前年度とほぼ同水準。  
販売増による運転資金の上昇、ならびに一過性の支払が主因。

	2017.3期	2018.3期	増減額
<b>営業活動によるCF</b>	<b>2,378</b>	<b>2,327</b>	<b>△51</b>
税金等調整前純利益	156	1,203	+1,047
減価償却費	1,628	1,687	+59
売掛債権の増減額（+は減少）	△166	△512	△345
棚卸資産の増減額（+は減少）	441	△219	△661
仕入債務の増減額（+は増加）	84	687	+603
その他	234	△520	△754
<b>投資活動によるCF</b>	<b>△1,179</b>	<b>△880</b>	<b>+298</b>
<b>フリー・キャッシュフロー</b>	<b>1,199</b>	<b>1,446</b>	<b>+247</b>
<b>財務活動によるCF</b>	<b>△629</b>	<b>△761</b>	<b>△132</b>
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△34	△25	+8
現金及び現金同等物の増減	536	659	+123
現金及び現金同等物の期末残高	1,453	2,113	+659

[営業CF △51]

・販売量の増加に伴い、  
売掛債権345百万円増加、  
棚卸資産661百万円増加、  
仕入債務603百万円増加

・役員退職慰労金の支払  
△535百万円等

# 2019年3月期 業績予想

---

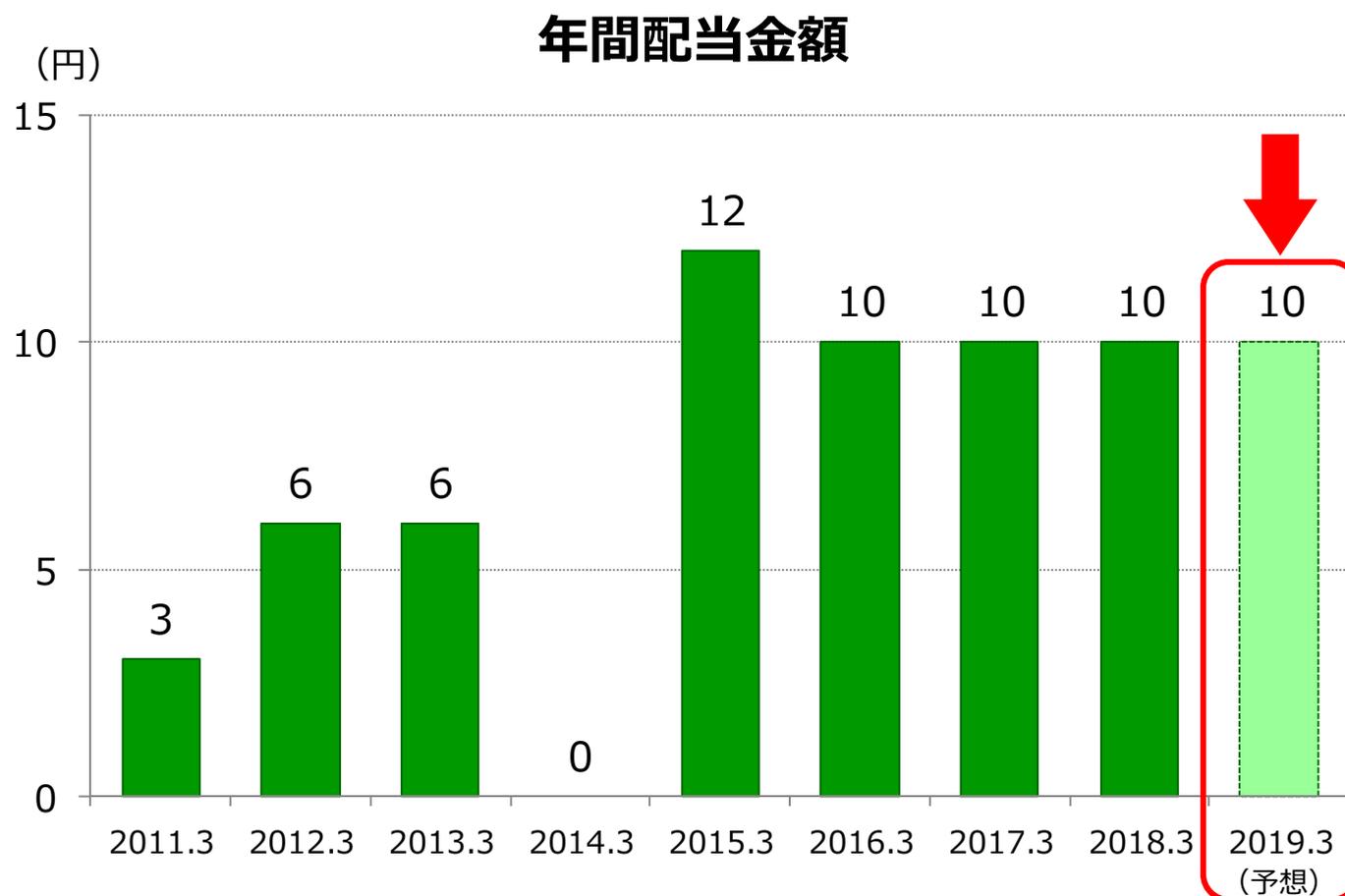
## 2019.3期 業績予想

- 需要動向は堅調な推移を見込む
- 想定為替レートは ¥107/\$

(百万円)	2018.3期 実績	2019.3期 業績予想	増減額	増減率
売上高	20,536	<b>22,000</b>	+1,464	+7.1%
営業利益	1,300	<b>1,100</b>	△200	△15.4%
経常利益	1,089	<b>1,000</b>	△89	△8.2%
当期純利益	863	<b>670</b>	△193	△22.4%

## 配当

- 安定配当を基本とし、設備投資による成長を加速
- 2019.3期も1株あたり年間10円の配当の見通し



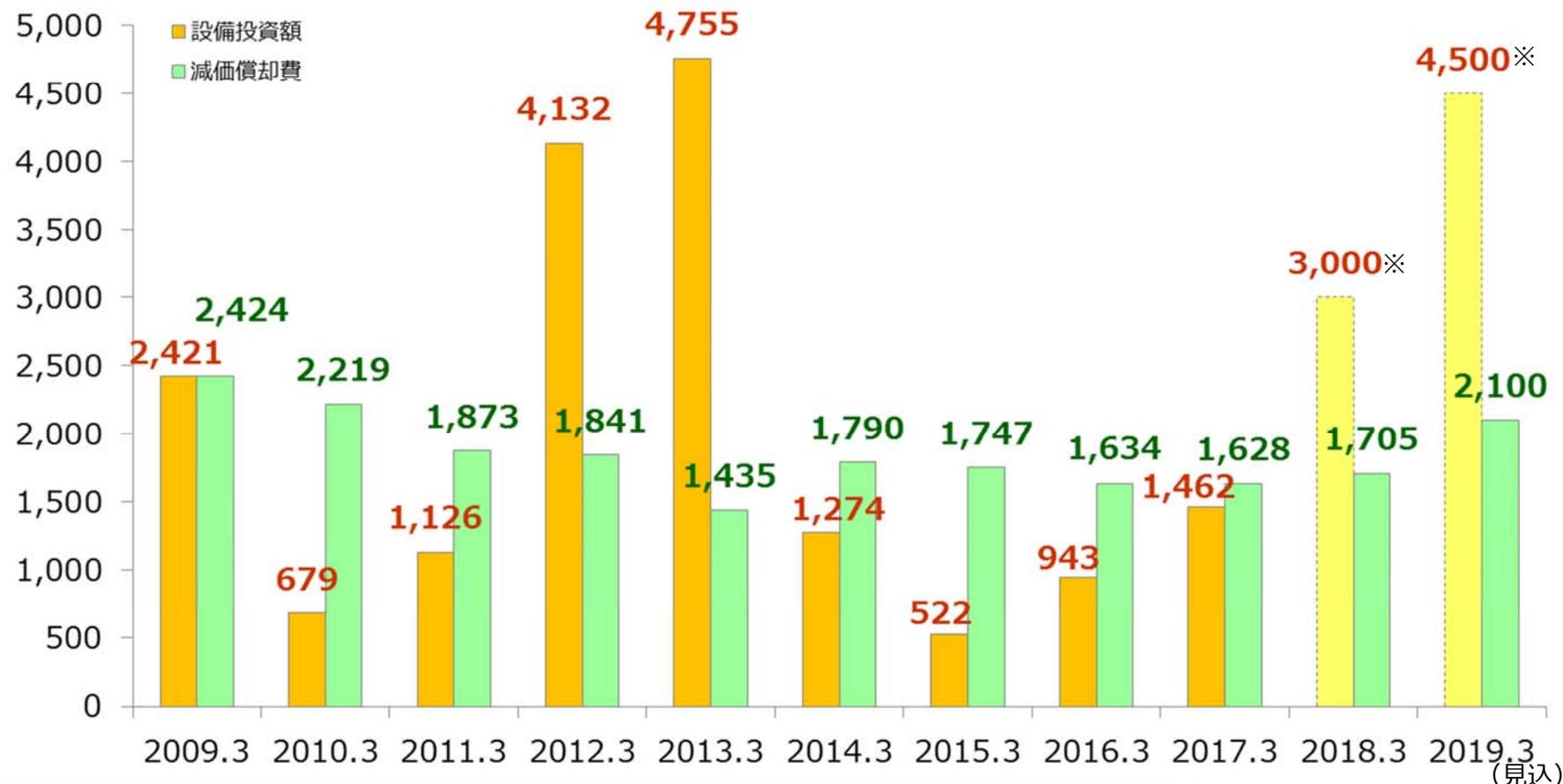
# 今後の展望

---

## 設備投資・減価償却

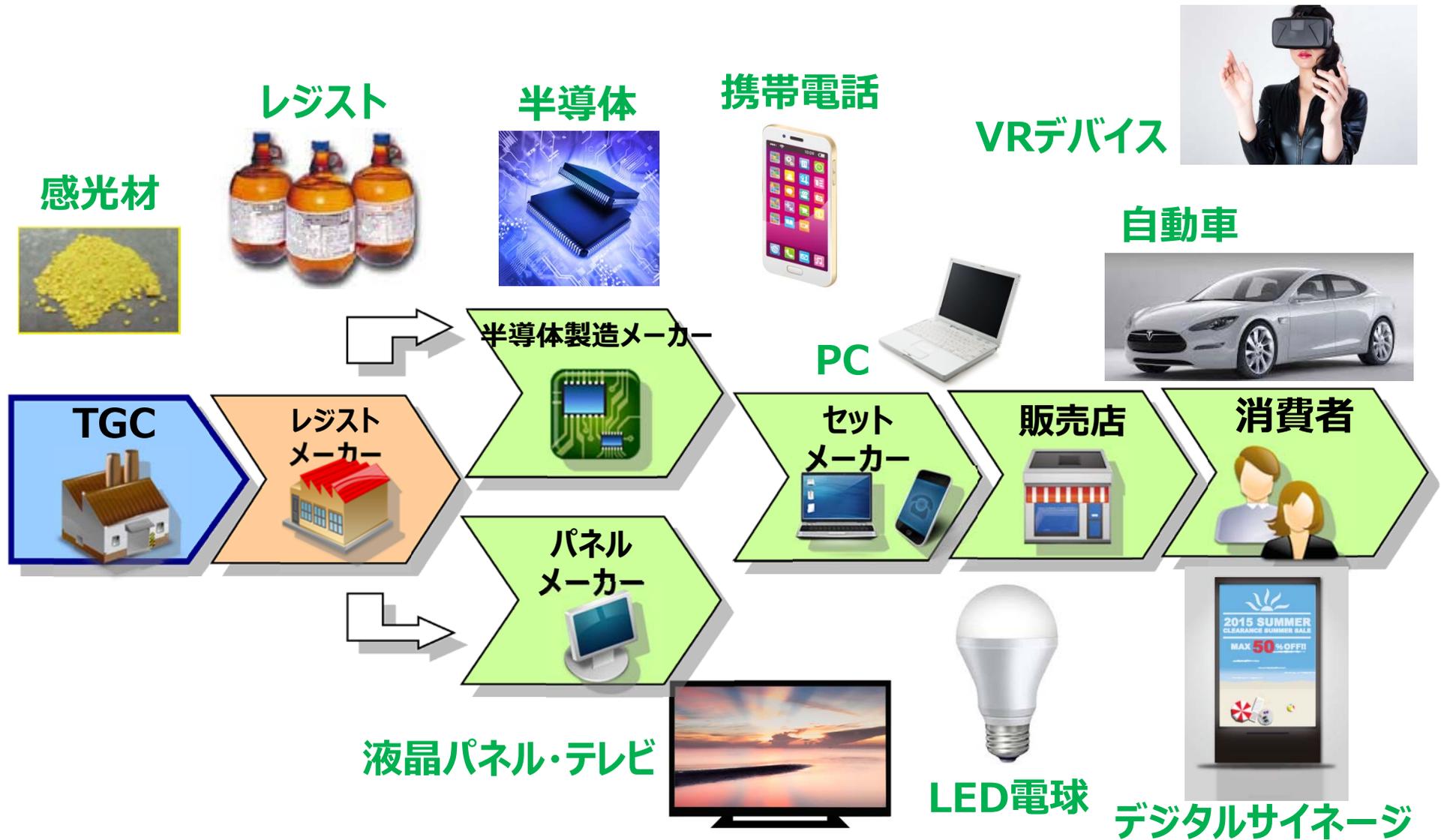
- 2014.3期以降、財務改善を優先し設備投資を抑制してきたが、半導体・FPD分野の成長を見込み、感光材を中心に生産能力の増強へシフト
- 減価償却費は増加見込みだが、2010.3期と同水準

設備投資額・減価償却費の推移



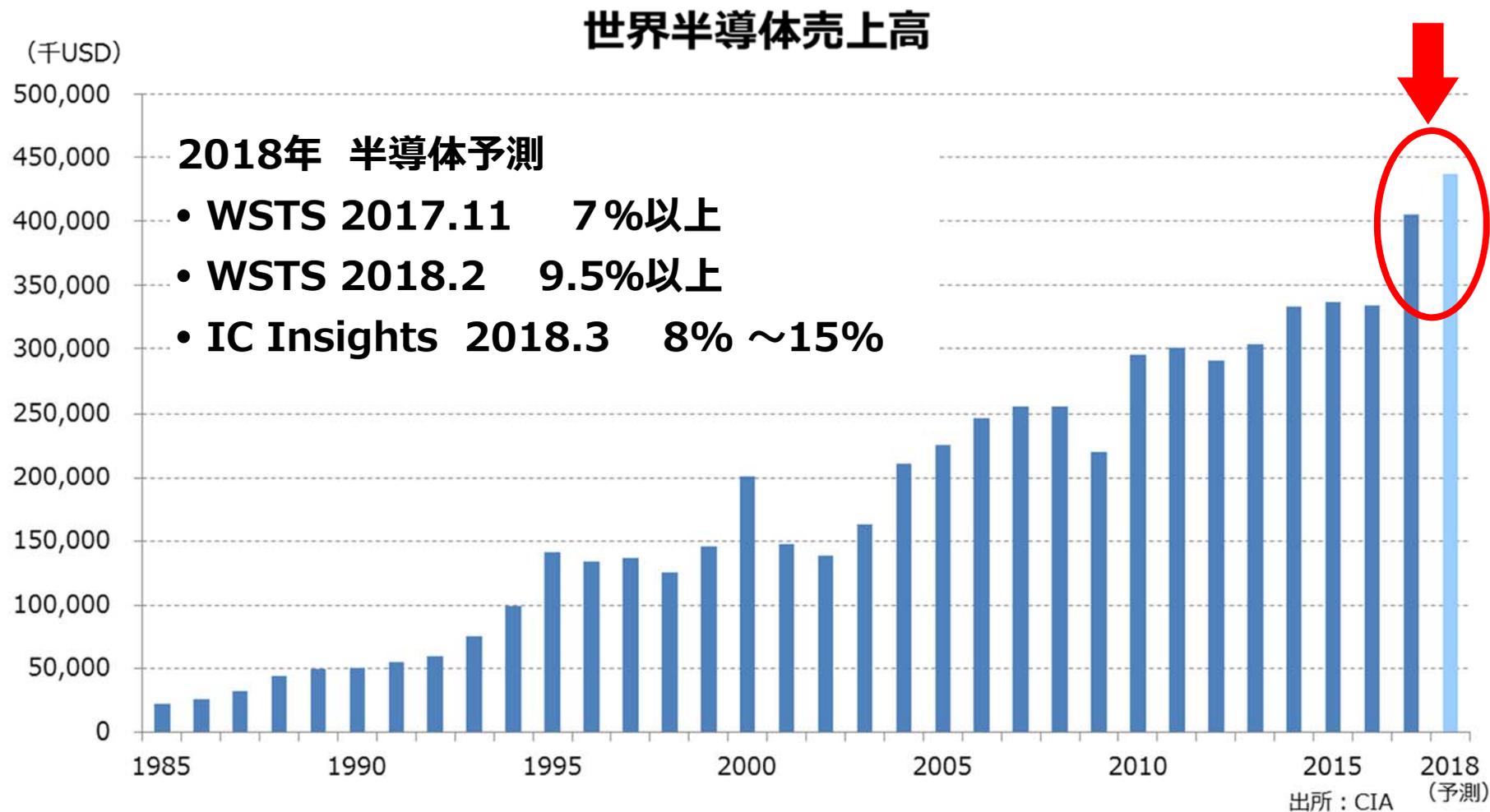
# 感光材事業の概要

- 半導体・ディスプレイの性能を決める、“感光材”グローバルシェア50%、世界No. 1



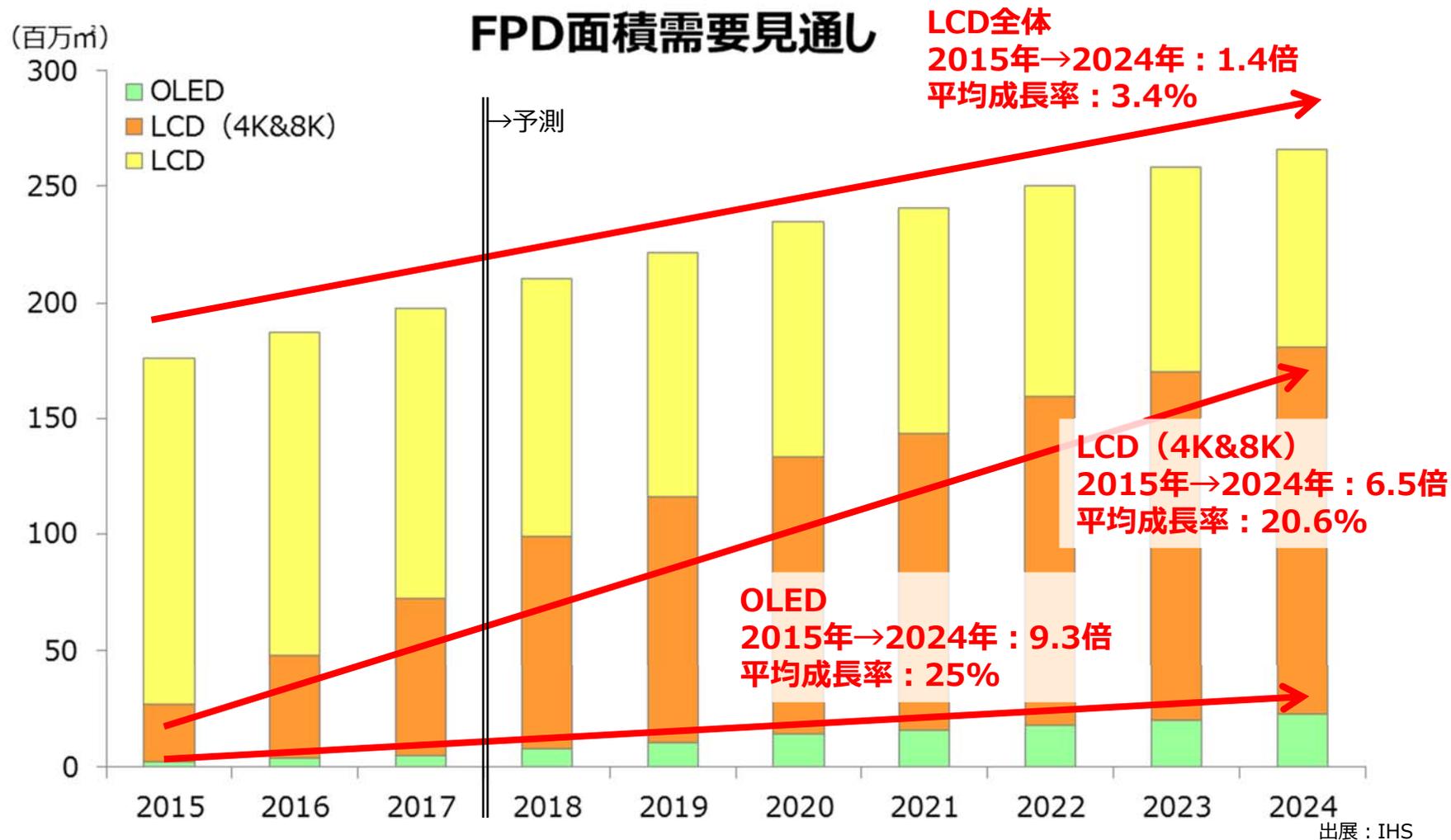
## 外部環境 世界半導体出荷額実績 対前年比21%増

2017年の世界の半導体出荷額は、21%の大幅成長。  
成長率は年初予測3.3%から、時間と共に加速。



# ディスプレイ市場

- FPD向けレジスト需要は、台湾・中国におけるFPD生産拡大により、成長が続く
- 画面の高精細化に伴い、高品質な感光材ニーズが顕著化



## 光源別線幅と市場の状況

- 半導体の微細加工技術と多層化が進展し、10nmノードまで量産化が進行
- 現在は、ArFの技術改良により、微細化が進行。EUVの量産化も視野

	FPDパネル用		半導体用							
	g+h+i線	i線	g線	i線	KrF		ArF			EUV
							液浸	マルチプルパターニング		
線幅	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~14nm	~7nm
用途	テレビ用、一般用	有機EL 4K・8K スマホ	IGBT、LCDドライバ、LED		SSD、DRAM / NAND FLASH メモリ					次世代ロジックLSI
			先端ロジックLSI							
市場	新興国の需要増	次世代FPD拡大	拡大	拡大	急拡大	横ばい	量産化、需要拡大			露光機販売中 量産準備

← 当社製品・研究開発のアプローチ範囲 →

# 感光材の設備増強

化学工業日報  
2017年10月24日記事

## 東洋合成、感光材を増強

### FPD向け 千葉で来春3〜4割

東洋合成工業は、感光材事業で相次ぎ設備投資を実施する。感光性材料の主力生産拠点である千葉工場（千葉県東庄町）で、フラットパネルディスプレイ（FPD）向け需要増などに対応し、ポジ型感光材の生産能力を拡大するほか、A E F（ラッチアルゴン）やEUV（極紫外線）世代に対応した先端材料系ポリマーを増強する。とも、2018年4月までに稼働する計画で、今年度下期中に実施する。生産能力はそれぞれ3〜4割高まる見通し。半導体・FPDメーカーの生産拡大にともないフル稼働が続いていることから供給体制を整備する。

### 先端材料系ポリマーも

東洋合成工業の感光材事業は、旧世代から先端の世代まで対応したレシ

ストポリマー、感光材、また化学増幅型レシストに用いられる光酸発生剤

（PAG）と幅広く手がける。複雑構造の先端PAGやポリマー重合が可

能なほか、ポジ型感光材で培った高い粉体晶析技術、高純度・低メタルと



感光性材料の主力生産拠点である千葉工場での相次ぎ設備投資を実施する

いった品質面などに強みを持つ。  
千葉工場にあるナフトキノン系のポジ型感光材の生産ラインのうち、乾

燥工程の設備を増強する。これにより複数ある反応槽のうち最大スケールの反応槽がフル稼働できる体制となり、全体の生産能力は3〜4割向上する。同社の感光材への設備投資は12年以來となっている。

中国などで液晶パネルへの投資が活発化しているほか、有機ELパネルが本格的に立ち上がることからFPD向け感光材の需要が高まる見通し。また、IoT（モノのインターネット）の進展な

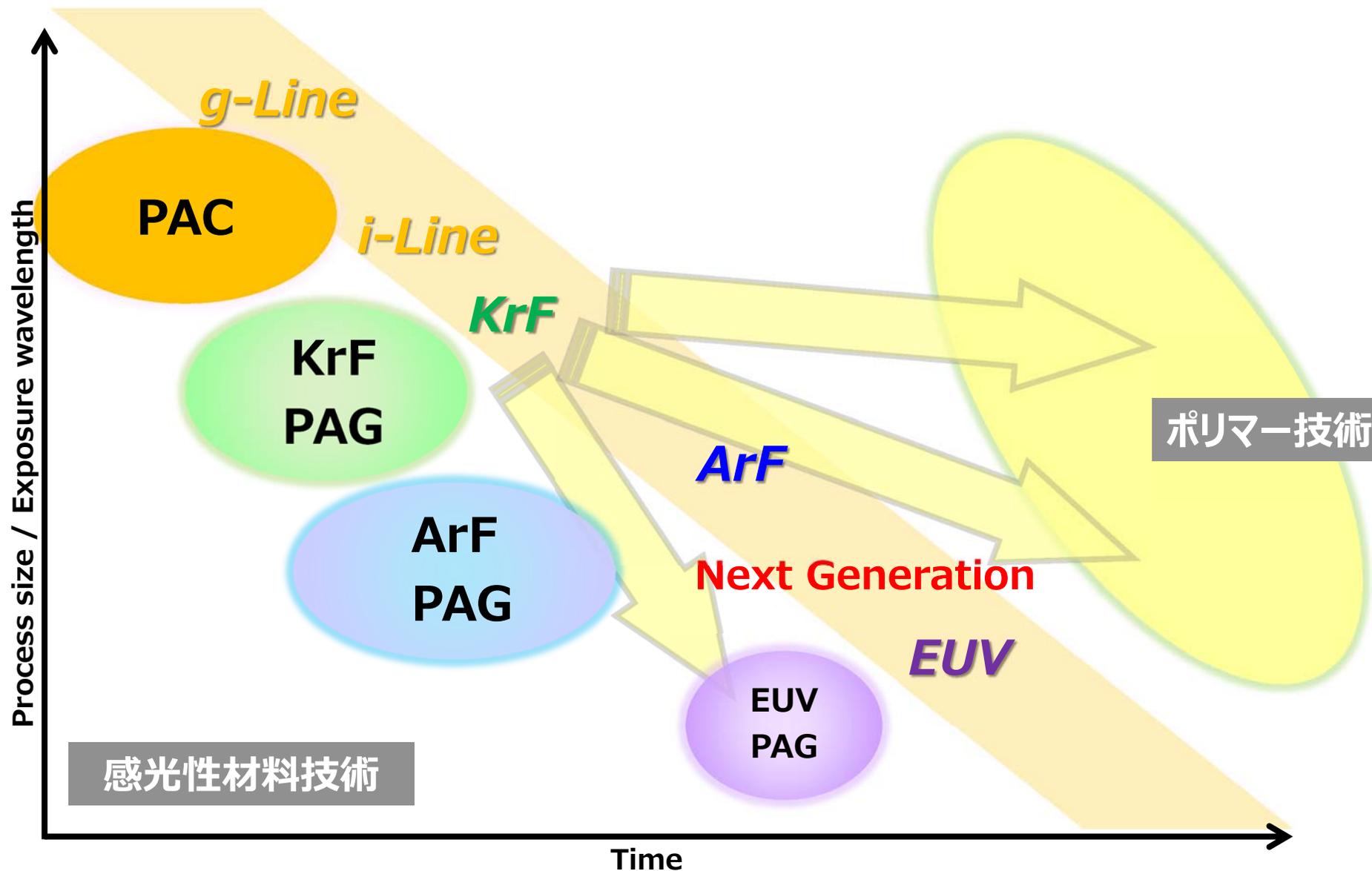
どによるデバイス多様化で、半導体プロセスの旧世代であるg線、i線レシスト材料の需要が増大しており、供給体制の強化により対応する。半導体向けの先端材料系ポリマーでは、A E F液浸や立ち上がったEUV向け需要に対応する。千葉工場にあるラインのうち1ラインで反応設備を増設。これにより全体の生産能力は3〜4割高まる。

半導体デバイス分野では3D NANDフラッシュに

シメモリー向け需要が伸びているほか、先端デバイスの多層レシストプロセスにより使用材料が増加。線幅7μm以下世代のフォトレシストに対応したEUV向けプロセスも立ち上がっており、これらの需要に 대응する。

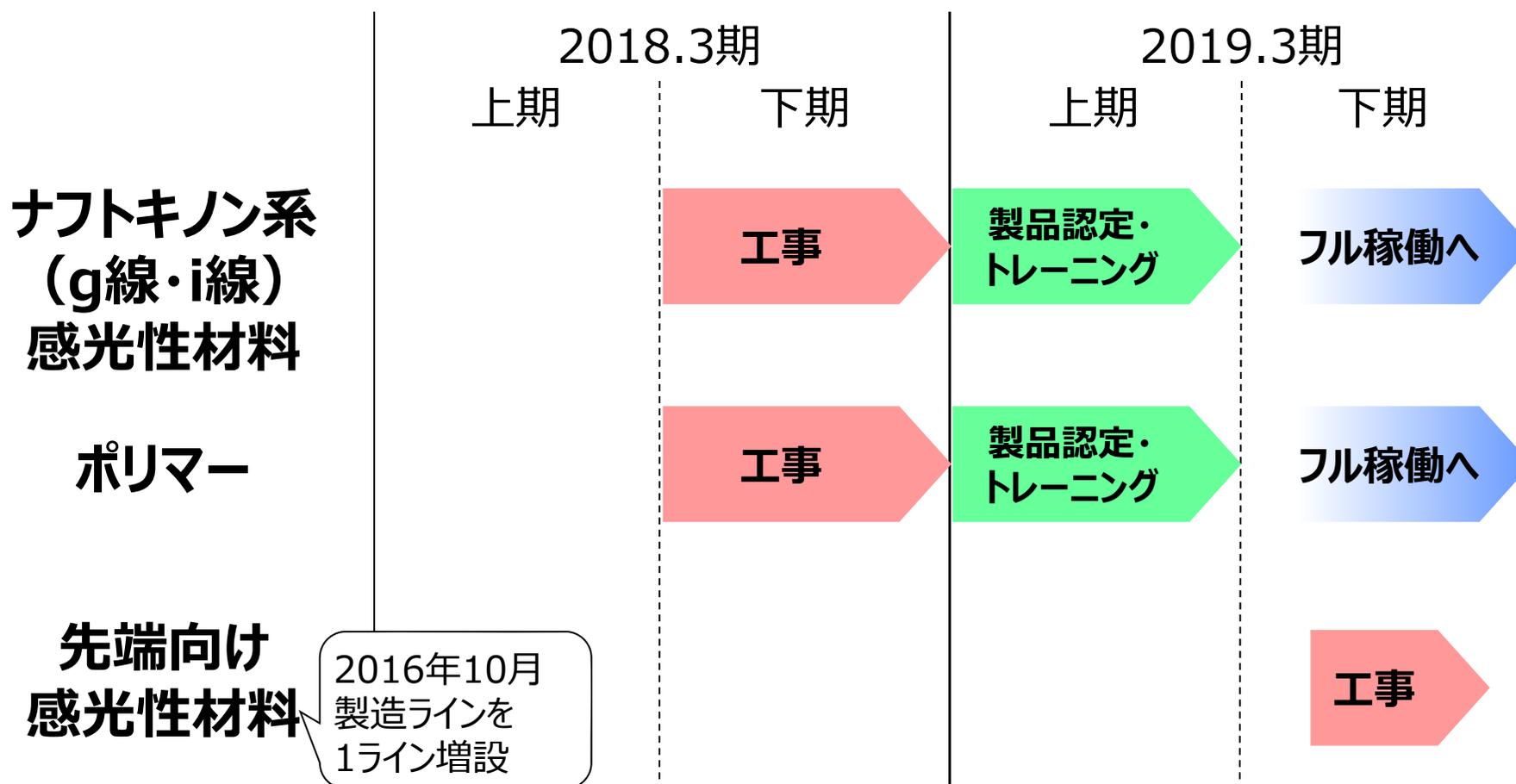
同社は昨年、千葉工場に先導半導体向けPAGを増強している。今回、フォトレシストの性能を左右する感光材およびポリマーについて、増大する需要や先端分野のニーズに

# 感光材の微細化と今後のトレンド



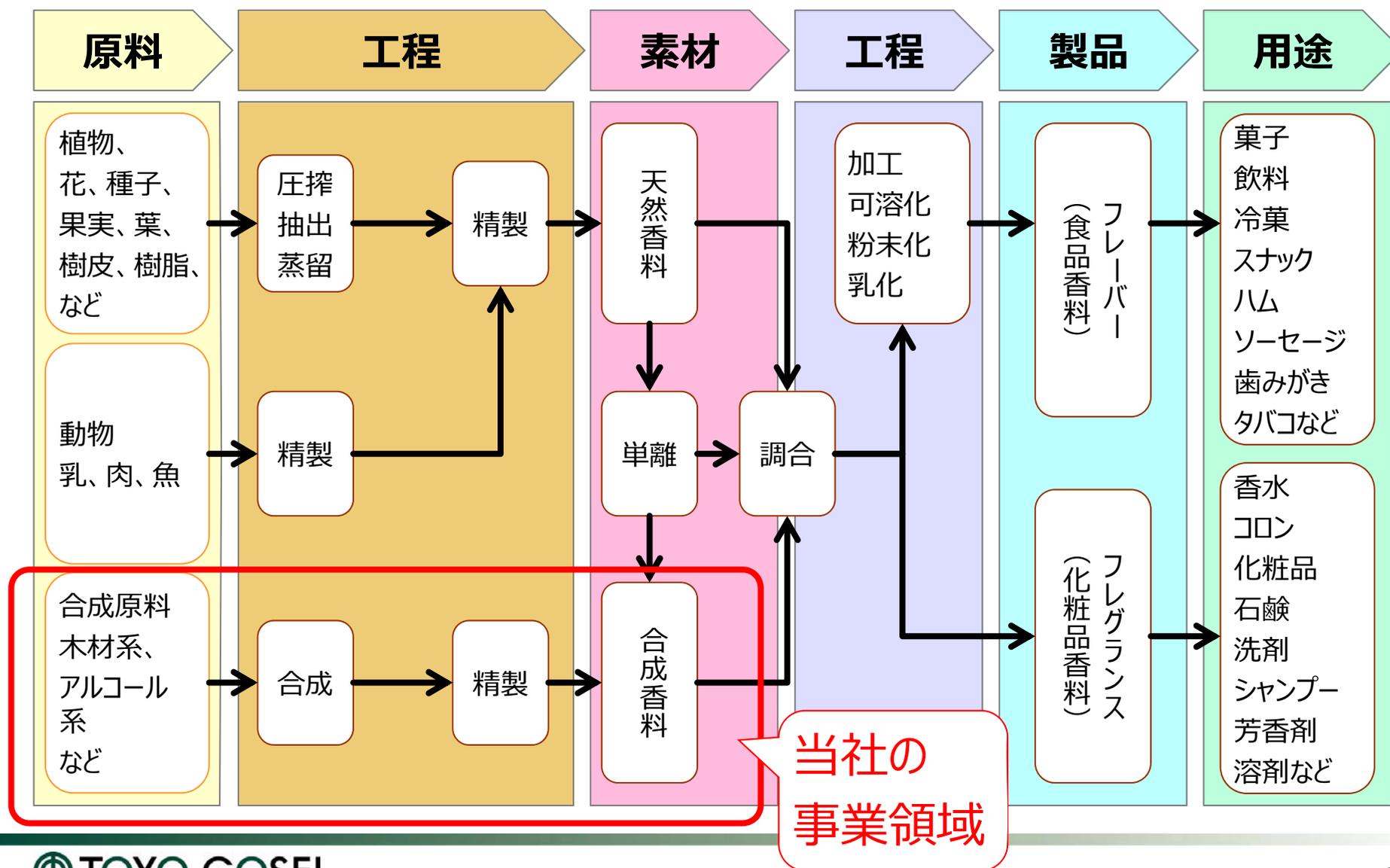
## 2018年3月期、2019年3月期の感光材の生産能力増強について

- 2018年4月、ナフトキン系（g線、i線）感光性材料とポリマーの設備増強は完了
- 当上期は、製品認定、品質管理、安全作業などのトレーニング期間のため、稼働上昇は下期以降の見込み
- 今下期に先端向け感光性材料の増強を計画、工事期間は一部ラインで稼働低下見込み



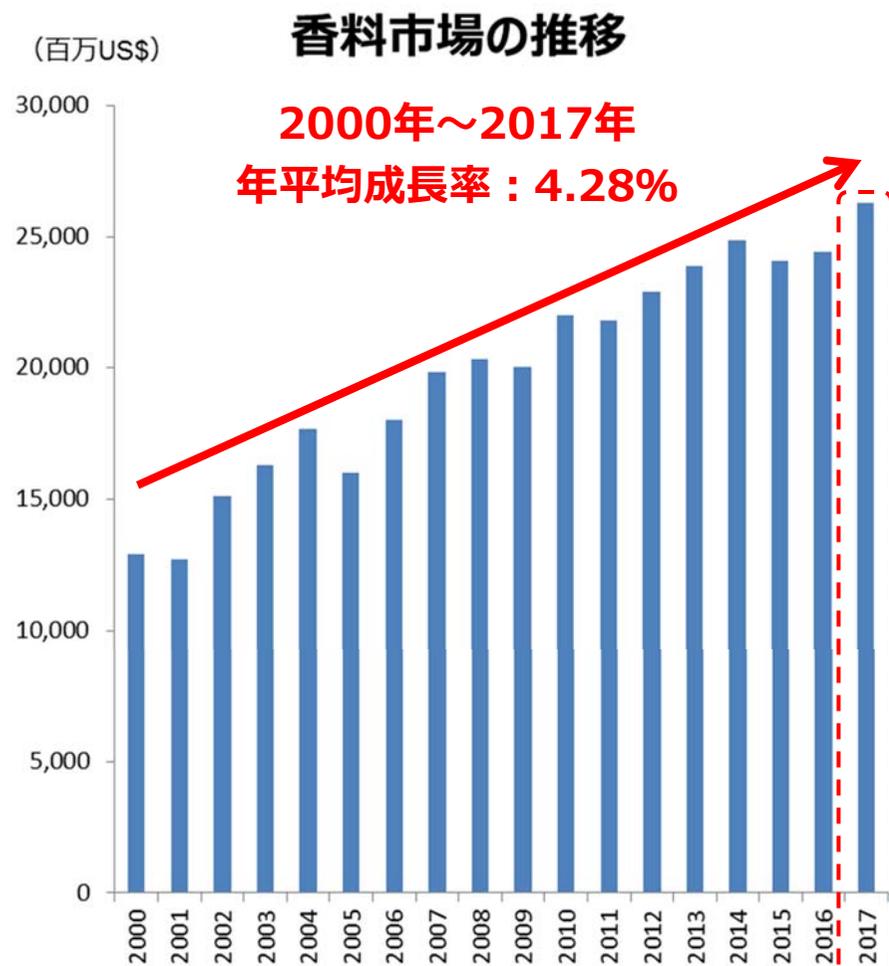
# 事業概要 化成品（香料材料）

## 香料の原料から最終製品までの流れ



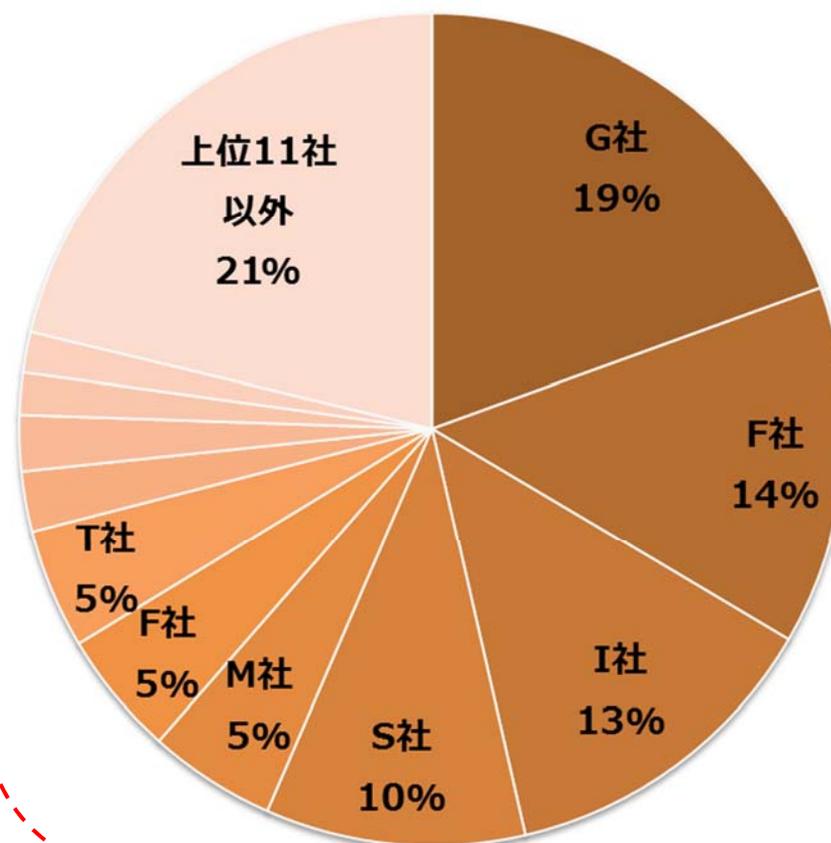
## 事業概要 化成品（香料材料）

香料市場の年平均成長率は4.28%、今後も同水準の成長が続く見通し  
世界香料市場は上位7社でシェア約70%



出展：Leffingwell & Associates

2017年 世界香料市場シェア





## 事業概要 化成品（ロジスティック）

- 2018年4月、分析設備の拡充による一層のサービス向上と、今後の自動化に向けた集中管理スペースを設けた新管理棟が完成。5月9日に落成式を実施した。



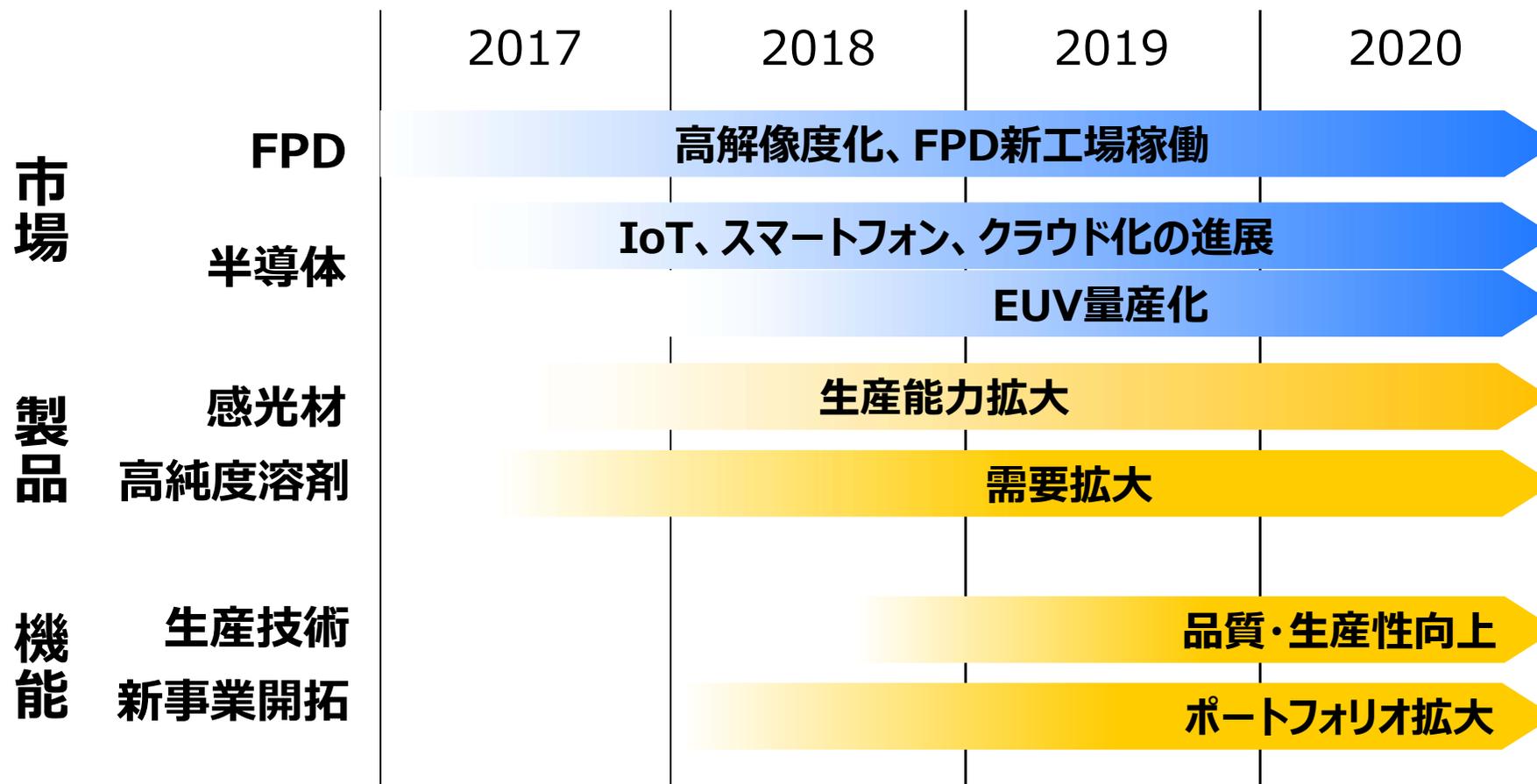
新管理棟の外観



落成式の様子

## 今後の見通し

- 今後、電子材料向け製品の品質管理技術、高純度化技術を強化するとともに、生産能力の拡大、生産性の向上させていく
- 並行して電子材料、感光材以外の製品開発を強化し、ポートフォリオ拡充を図る



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

# 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。